



# 国際理解実践フォーラム ～山形県国際交流協会、JICA 東北との連携事例～

認定 NPO 法人 IVY 理事 阿部 眞理子・安達 三千代

## 設立の経緯と活動

認定 NPO 法人 IVY (アイビー) は、山形市に本部を置く国際協力 NGO です。設立のきっかけとなったのはスタディツアー。1991 年 8 月に山形県人 10 人が、「報道だけでは実際に何が起きているのかわからない。現場に行って、自分たちの目で見てみよう」と、タイにあったカンボジア難民キャンプを訪れたのがきっかけです。

10 年が経過していた難民キャンプには混乱や緊迫感こそなかったのですが、第三国への移民や本国帰還に不安を募らせている難民の姿を目の当たりにして、「自分たちも何かやらねば」という気持ちになっていました。

その 4 か月後、1991 年 12 月、「山形という地方を拠点として世界の問題と関わり、世界の全ての人々が人間らしく生きられる社会をめざす」という理念の下、産声を上げました。

以来約 30 年、カンボジア、フィリピン、東ティモール、イラク、バングラデシュで、農業、教育、医療、難民支援等、多岐の分野にわたって国際協力を行ってきました。



ミャンマー避難民キャンプで深井戸、浄化槽付きトイレを設置。手洗い等の衛生トレーニングも提供 (バングラデシュ)

しかし、IVY の活動は国際協力だけではありません。「地方を拠点として」世界の問題に関わるのが理念ですので、足元の「内なる国際化」という課題にも取り組んできました。その 1 つが在住外国人支援であり、日本語教室や医療通訳派遣、生活相談等を行ってきました。



イラクで 2014 年から行われている教育支援。写真は空爆で壊れた校舎を再建したタルジェラ小学校の様子

## 海外と国内をつなぐ活動

また、もう 1 つが国際理解教育です。IVY の国際理解教育は、「ワークショップ」という参加型の学習法を用いているのが特色です。

これは、1994 年にスタッフ 2 人が、IVY 白鷹日本語学校 (当時) 主催で開かれたフィリピン人ファシリテーター デッサ・ケセダさんによる「外国出身者と住民とのコミュニケーションワークショップ」に参加したことがきっかけです。その後、学習会グループが生まれ、2000 年に国際理解教育部門ができ、現在は東北 6 県の小学校から大学までの依頼にこたえてスタッフを派遣しています。カンボジアの農村支援やイラク、バングラデシュでの難民支援から生まれたオリジナルのワークショップも人気です。

2005 年度からは「地球子どもキャンプ (後に、環境大臣賞受賞)」を開催しています。毎年冬に留学生を含



む大学生がリーダーとなり、約 50 人の小学生と「少年自然の家」に宿泊して、雪や大自然とふれあい、環境問題について毎年違ったテーマで考えます。前回のテーマは「プラスチック問題」でした。



2018 年 12 月開催の「地球子どもキャンプ」

## フォーラム 200 人規模のイベントに成長

2004 年度から始まった「国際理解実践フォーラム」(フォーラム)は、公益財団法人山形県国際交流協会、独立行政法人国際協力機構東北センター (JICA 東北)、IVY の 3 者協働事業として、16 年続いています。

開始当初は総合的な学習が導入された頃で、教員を対象とし、地域で活動する国際関係の団体や在住外国人と学校現場をつなぐことが目的でした。2008 年には協働で国際理解教育の実践事例集「教室から世界へ」を発行。2011 年からは分科会担当者を中心とした実行委員会ができ、主催 3 団体と共に運営を担うことになりました。さらに、同年、対象を市民にも広げることになり、初参



「難民を知るワークショップⅡ ミャンマー避難民編」

加者向けの分科会を作る、参加者のニーズに沿った分科会内容に変えていくなど見直しを行った結果、過去最高の 74 人の参加者となりました。その後、参加者は順調に増えており、昨年は 150 人、関係者も合わせると 200 人規模のイベントに成長しました。

本フォーラムの特色としては、以下が挙げられます。

- 分科会が主催 3 団体の特色を生かした「多文化共生」、「国際協力」、「国際理解教育」で構成されている。
- 山形県、山形市、地元の大学、山形県青年海外協力協会、小中学校教員等が実行委員会メンバーとなっており、地域に密着した事業となっている。
- 分科会を固定化せず、変化するニーズに合わせて内容を毎年見直している (昨年度は、ユネスコ創造都市ネットワークに登録された山形市が初めて分科会を担当)。
- 高校生が発信する場を設けたことにより、高校生、中学生の参加者が半数近くを占めるようになった。分科会が異世代間で意見を交わす機会ともなっている。

今年度は新型コロナウイルス感染症の影響で開催が危ぶまれています。フォーラムの灯を消さないためにもオンライン開催等検討を重ねていく予定です。

**参加者募集**

**体験!実践!**  
**国際理解実践**  
**フォーラム2019**  
～山形から世界をみてみよう～

2019年  
**12月15日 日**  
**10:00～16:30**  
(受付9:40～)

会場:霞城セントラル 3階大会議室ほか  
(JR山形駅直結徒歩3分)

山形にしながら、世界について考えます。  
多文化共生や国際協力、国際理解教育など、様々な分野をテーマにした8つの分科会から好きな分科会を選んで、理解を深めることはもちろん、参加者同士で意見交換や情報共有をして、交流を深めましょう。そして、**国際交流・協力**にかかわる人々の輪を広げていきましょう!

**参加無料 要申込(締切12/10火)**

山形 国際理解実践フォーラム2019

検索

Facebook

国際理解実践フォーラム

主催:公益財団法人山形県国際交流協会(AIRY)  
 独立行政法人国際協力機構東北センター (JICA東北)  
 認定NPO法人IVY

企画・運営:国際理解実践フォーラム2019実行委員会  
 後援(予定):山形県、山形県教育委員会、山形市、  
 山形市教育委員会、山形市国際交流協会

申し込みは  
こちらから!

フォーラムチラシ (2019 年度)